

tomorrow



【特集】

ワンダブル! ディープ・ジャマイカ

カリブ海に浮かぶ美しい緑と水の島

town navigation

クルマで行く旅

伊豆、修善寺。

tomorrow interview

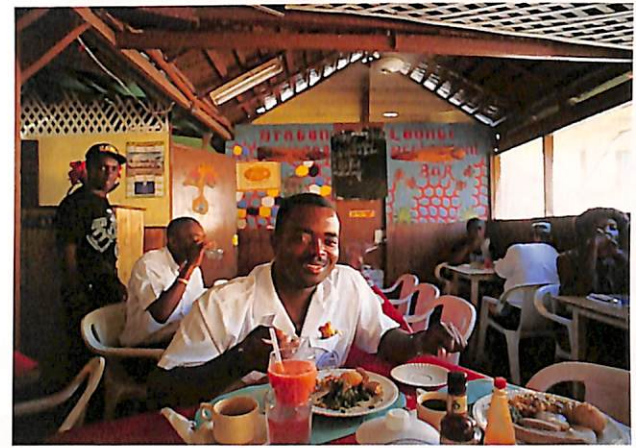
荻野アンナ

ディープ・ジャマイカ プ・ンダフル!

カリブ海に浮かぶ美しい緑と水の島、ジャマイカ。レゲエとボブ・マーリーを生んだ南海岸のキングストン。ビーチ・リゾートと多彩な観光スポットで知られる、北海岸のモンテゴ・ベイ、オーチョ・リオス。どちらも十分に魅力的。が、ジャマイカの魅力はそれだけではないはずだ。レゲエでもリゾートでもない、素顔のジャマイカを知るための、ディープ・ジャマイカ探検記。

tomorrow
my
favorite
journey
No. 3

写真＝伊奈英次
文＝編集部



「ソルトフィッシュ&アキー」

モンテゴ・ベイの街はずれにあるローカル・レストラン、「ドラゴン・ラウンジ」を訪れたのは、日曜日の早朝のことである。レストランとはいっても、粗末な小屋を改造したようなもの。裏手にはカリブの青い海が広がり、浜辺にはパラックが建ち並ぶ。およそ観光客は来そうにない一帯だ。

ジャマイカ人の口ぐせ、「ノー・プロブレム」を連発するわがタクシードライバー、マイケルに促されて薄暗い店内に入ると、先客のジャマイカ人たちがもの珍しげに微笑みかけてくる。

と、マイケル氏。どうやらこれがジャマイカの朝の定番メニューらしい。

出てきたのは、スクランブル・エッグに似た黄色いアキーという木の実に、干し魚の炒めもの。アキーはまったりとした味わいでなかなかおいしい。「マイケル、グッド・レストラン」と逆に連発してやると、伏し目が

ちに照れ笑いをする。この男、見かけはギョロ目だがベン・ジョンソン風でちよつとコワイが、意外にかわいらしいところがある。

さあ、出発だ。マイケルのクルマは、日本車やロシア製のバンなどが多いジャマイカのタクシーストでは珍しく、でっかい赤のアメリカ車である。ご多分にもれずオイルを垂れ流すポンコツだが、ノー・プロブレム。BGMはもちろんレゲエ。リゾートホテルやゴルフ場を尻目に、海岸線をつつ走る。ほぼ一年中気候は一定しているというが、今日は汗ばむほどの暑さ。風がほてった肌に心地よい。

途中、巻き貝のみやげものを売っている海辺の露店に立ち寄る。カリブの海風を全身で満喫。リーフに囲まれた浜辺は、波一つなく穏やかだ。

小屋の横では、お父さんと子供たちがきれいな熱帯の魚をさばっていた。はらわたをとった魚を木の枝につるして、少し日にあてたあと、フライにするらしい。売るのが？と女の子に聞くと、お昼に食べるのだという。車に乗ろうとすると、さっきの女の子が駆け



寄ってきた。何かと思えば、恥ずかしそうに「料理するから、あとで食べに来て」と言う。これには感激！ ジャマイカの人たちに対して、知らず知らず身構えていた自分がバカらしく思えてくる。

さて、車は海岸線をはなれ、一路内陸部へと向かう。

道の両側に緑のさとうきび畑が広がる。その収穫の光景に出くわした。男たちが刈る畑は、なぜか一面黒く焼けたたれでいる。「刈り取りの前の日に畑を焼くんだよ。葉っぱで手をけがさないように、それと畑にいるヘビを退治するため」とマイケル。ただしヘビに関しては、国がアフリカからマンガースを輸入して放つて以来、ジャマイカのヘビは激減したという。

車はいつのまにか山道へと入り、曲がりくねった上り坂をずんずん登っていく。そこはもうジャマイカの秘境、熱帯ジャングルだ。

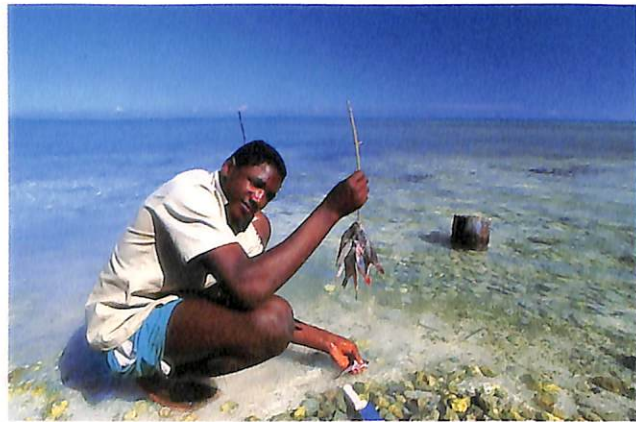
車を降り、しばらくジャングル・ピクニックを楽しむことにした。たくましく生い茂る



海辺のドリンク・スタンド



フルーツ売りからバナナと真っ赤に熟れたりんごを買う。日本のりんごとは大違いで、かなり水っぽい。とれたての魚の腹を裂き、つるして干す。お昼に食べるのだという！





すると突然、脇道からハッとすると、うなかわいらしい少女が現れた。

さまざまな植物、その中にひっそりと咲く美しい熱帯の花々。出会う人もなく、カン高い野鳥の鳴き声だけが山々に響き渡る。

真っ白なブラウスが目に眩しい。そうか、今日は日曜日。教会へ行く日だ。そのあとも山道で何人かの家族連れとすれ違う。みなあんなにうなかわいらしい少女が現れた。とても暗い暗い表情をしている。それにしても、こんな山深くのどこに教会があるのだろうか。

ジャマイカには平野が乏しく、島のほとんどを熱帯雨林におおわれた山岳地帯が占めている。逆に人口の都市への集中は激しい。しかしこうした山奥深くにも、ポツリポツリと思ひ出したように民家が点在している。簡素な木の小屋に住み、わずかなかりの畑を耕し、牛や豚を飼い、ずっと変わらぬ生活を続ける人々。アジアの田舎の風景とちがうとも変わらない。日本でもほんの十数年前



植民地時代からの重要な外貨資源、さとうきびの収穫



道端でのんびりと洗濯をする



放し飼いの牛がゆったりと草をはむ

まではごく普通に見られた懐かしい光景だ。道端でのんびりと洗濯をする女性。牛がゆったりとした動きで路上の草をはむ。熱帯の強烈な日差しと、うっそうと生い茂るジャングルが織りなす、光と影のコントラスト。まるで時間が止まったような、夢を見ているような錯覚に陥る。

グレートリバー上流の渓谷、マウンテン・パレーにたどり着く。ここは観光客に人気の高い、いかだ下りの出発点。まだ時間が早いせい、観光客の姿はない。

ラフトマン（いかだ師）が、竹製のいかだに

乗って流れをさかのぼってくる。あんなに細い体でどうして、と思えるくらい、いかだを器用にあやつる。歳を聞くと、まだ17歳。カメラを向けると、すがすがしい笑顔でこたえてくれた。こんないい表情、都会ではめったにお目にかかれない。川岸ではいかだづくり。たくましい青年が一心にナタをふるって竹を切り、その音が渓谷にこだまする。「よく働くね」と声をかけると、「ヤー、ヤー」と汗だくの顔がにっこり。

その向こうには、かなり古びたアーチ状の石橋が川をまたいでいる。モニュメントにあれば、「1828年、黒人奴隷によって建設された橋」彼ら若者たちもまた、遠くアフリカから連れてこられ、この橋をつくった人々の末裔なのだ。

橋のたもとでアイスクリーム売りに出会った。バイクの荷台にア





グレートリバー上流、
マウンテンバレーのいかだ下り

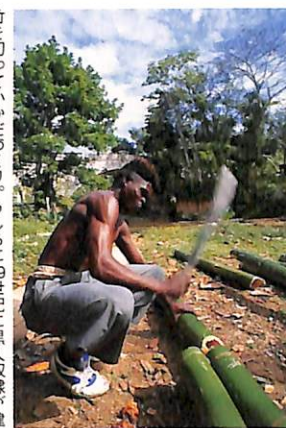
イスクリームの入った木箱をのせた、懐かしいスタイル。アイスクリームがまた実に懐かしい味がする。

長い山道を下り、再び海岸線へ。にわかに雲行きが怪しくなってきたかと思うと、間もなく熱帯特有の激しいスコールがやってきた。視界がまったくきかず、ほとんど前に進めない状態。道路はまるで川のようになり、どこへ避難したのか、路上から車がほとんど消えてしまった。今は乾季だが、午後にはしばしばこうしたスコールに見舞われる。それも局地的なもので、ほどなく時間がのぞく。

スコールでエンコした車を横目に、モンテゴ・ベイへ帰路につく。と、街の手前でマイケルはハンドルを切り、また坂道を上りはじめた。



橋のたもとでバイクのアイスクリーム売りに出会った



竹を切っていくだくり。うしろに19世紀に黒人奴隷が建設した石橋が見える

に誇る文化となったレゲエもこうしたゲットの混沌の中から生まれたのだ。

ゲットを案内してくれるなんて、イキなばかりにするじゃないか。そう思ったのも束の間、マイケルが車を止めたのは、ゲットに比べればマトモな住宅地にある自分の家の前。この男からは想像できない美人のワイフを迎えられ、あつけにとられる。聞けば新婚ホヤホヤなのであった。こりやかなわんと早々に退散。外に出ると、雨上がりの空には虹がかかっていた。

しめくりは、やはりカリブ海に沈む夕陽という。モンテゴ・ベイの街を一望する高台、リッチモンド・ヒルに登る。左手にダウンタウン、穏やかに水をたたえるモンテゴ湾、その彼方の水平線に、真っ赤な夕陽が沈んでいく。そして右手にはゲット。しだいに夕間に沈んでいくゲットには、夕餉の煙が立ちのぼり、子供たちや犬の声や雑多な生活のざわめきが谷間を伝って聞こえてくる。ふいにそこがとても懐かしい場所のように思えてきた。



このスリムな体で、いかだを見事にあやつる。まだ17歳だ
おいしいナッツクリーム





レアー・ワールド (植物園)
モンテゴ・ベイ南方のグレートリバー上流にある植物園。コーヒーをはじめジャマイカの熱帯植物が数多く植えられている。ジャマイカン・ラムやカクテルのテイasting・コーナーもある。



ジャマイカ・サファリヴィレッジ
クロコダイルが住む広大なスワンプの中につくられたワニ園。「007」や「パピヨン」の映画撮影の舞台にもなった。ちなみに「007」の原作はオーチョ・リオス近郊に居を構えたイアン・ Flemingによって生み出された。モンテゴ・ベイから東へ約20km。

LIFE DESK SERVICE INFORMATION

LIFE DESKは、ライフ国際カード会員の皆様にお気軽に立ち寄りいただける海外の窓口です。
日本語を話せるスタッフが皆様のお問い合わせにお答えするほか、各種サービスの御案内もしております。
ご出発前、現地問わず気軽にご連絡ください。
なお、ニューヨーク方面への旅行の際には、LIFE DESKへお立ち寄りください。

LIFE DESK ニューヨーク
TEL:1-800-366-5430
(トール・フリー)

712 Fifth Avenue, 44th Floor, New York.
電話受付時間 24時間

レセプションカウンター営業時間
9:00~17:00 (土・日・祭日休み)

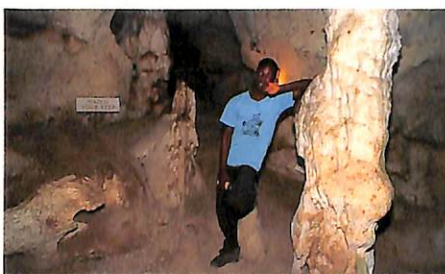
※トール・フリーダイヤル (通話料金無料) は、各国とも国内でのみご利用いただけます。



ダンスリバーの滝登り
オーチョ・リオスから西へ3km、ブルーマウンテンを源とする清流がーにカリブ海へ注ぎこもダンスリバーの滝がある。この滝をピーチから1時間程度、徒歩で登る。スリルと野趣あふれる、ジャマイカ観光最大の目玉。



ネグリル・ビーチ
ジャマイカ西端にあるネグリルは、カリブ海に沈む夕陽が美しいことで知られるリゾート。観光客だけでなくジャマイカ人にも人気が高く、気どらない自由な雰囲気魅力だ。マリンスポーツも充実、サンセット・クルーズのツアーもある。



ランナウェイ・ケイヴ
ジャマイカ版秋芳洞ともいべき自然洞穴。17世紀にイギリス軍がスペイン軍との戦いで追われ、ここを逃げたことで知られる。洞穴最深部にある地底湖は「007」の撮影にも使われた。洞穴内ステージではレゲエのナイトショーもある。オーチョ・リオスから西へ約25km。

オーチョ・リオス〜ネグリル One day トリップ from Ocho Rios to Negril

モンテゴ・ベイ、オーチョ・リオス、ネグリルなど、ジャマイカを代表するリゾートは島の北岸に集中。マリンスポーツ、ゴルフから、滝登り、いかだ下りまで、美しい自然の中で多彩なリゾート・ライフが満喫できる。



コロンプス・パーク
1494年、コロンプスがジャマイカに初めて上陸したディスカバリー・ベイを望む丘にある、オープン・ミュージアム形式の公園。コロンプス像、プランテーション時代の水車などの遺構を展示。オーチョ・リオスから西へ約45km。



ゴルフ場
ジャマイカのリゾートでマリンスポーツと並んで人気が高いのがゴルフ。とくにモンテゴ・ベイ周辺にはビッグトーナメントがたびたび開かれている有名なコースが集まっている。もちろん設備、眺望とも申し分ない。



アキー
ジャマイカ特産の食用の木の実。熟して実が割れるまでは毒があって食べられない。ジャマイカンの朝食の定番メニュー「アキー&ソルトフィッシュ」は、加熱したアキーと干し魚(タラなど)を炒めたもの。



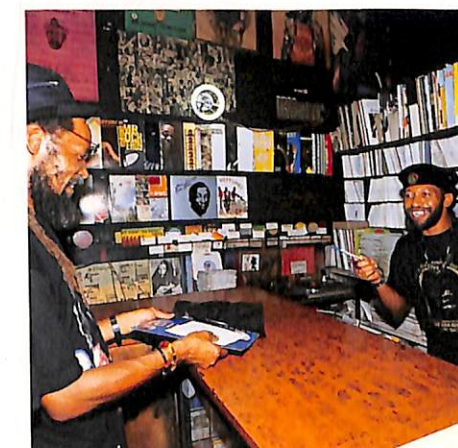
●ジャマイカ・マップ
●モンテゴ・ベイ〜キングストン間は1日数本飛行機が飛んでいる。
所要時間40分



ジュニア・ハイスchoolの女生徒
ジャマイカにもいた制服の乙女たち。学校によって色はさまざま。ショートヘア、開襟シャツにジャンパースカート、白のソックスに黒い靴という古典的なスタイルながら、素朴さがマル。みなとても陽気で人なつこい。



カセットテープの露店
ダウンタウン中心にあるバレード広場に数並ぶ露店の中で最も目立つのが、カセット売りのキザなアンちゃんたち。中身はサウンドシステムのライブ録音で、すべて日付入り。最新のレゲエ・サウンドを体験できる。



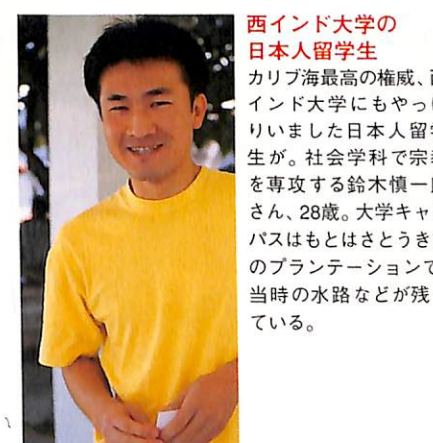
ロッカーズ・インターナショナル
有名なメロディカ奏者、オーガス・パブロが経営するレコード店。レコード店はどこも気軽に試聴させてくれるので、よくわからない人もどしどし聴かせてもらうべし。7インチ・シングル1枚、約150円也。安い!



サウンドシステム
サウンドシステムとは野外移動ディスコのこと。トラックにスピーカー等機材を積み込み、どこでも出張してしまう。レコードを次々に回し、そこにDJ(歌手)のラップをかぶせていく。レゲエの最先端が日々ここで生み出されているのだ。



サウンドシステムのポスター
サウンドシステムの場所、時間、出演者などを知るための唯一の手がかりがコレ。とはいえ街のあちこちに競い合うようにベタベタ貼ってあり、見逃す心配はない。いまやキングストンの街並に欠かせない彩りに。



西インド大学の日本人留学生

カリブ海最高の権威、西インド大学にもやっばりいました日本人留学生が。社会学科で宗教を専攻する鈴木慎一郎さん、28歳。大学キャンパスはもとさとうきびのプランテーションで、当時の水路などが残っている。

ジャマイカに来たならレゲエのメッカ、キングストンを訪れないわけにはいかない。レゲエはボブ・マーリーで終わったなどというのは、大きな間違い。超過激なサウンドシステムを装備し、キングストンは今、熱く燃え上がっている。



チャンネル1・スタジオ
数あるレコーディング・スタジオの中でも老舗がココ。70年代からスライ&ロビーをはじめ名うてのスタジオ・ミュージシャンを揃え、シーンを引っばってきたが、レゲエの新旧交代の波は激しく、今は残念ながら閉鎖中。



レゴ・スタジオ
ローカル色の強い老舗スタジオ。レゲエの独創的なサウンドは常に变幻自在のスタジオ・ワークによって生み出されてきた。写真中央はバンクの女王パティ・スミスも敬愛したという元シンガー、プロデューサーのタッパー・ズーキー。



ハリー・J (レコード工場)
レゲエの世界ではまだアナログ・レコードが健在だ。主力は7インチ・シングル盤。最新ヒットが手作業でばんばんプレスされていく。ローテクとハイテクとがぐちゃぐちゃに混在しているのがレゲエのおもしろいところ。

ラムカレー

褐色の肌とカリブの風 (ジャマイカ)

島の周りにイカの大群が押し寄せて、困っている国はどこだ? 「知らないなあ」というと「ジャマイカ」。ほかほかしいと思いつつも、思わず笑ってしまった。

ジャマイカへは、残念だが行ったことがない。青い海と白い砂浜。褐色の肌の少女。砂浜のまわりの原色の花を髪に挿した女たち。天才画家でも描けないような、海のなかの奇妙な形と色をした魚たち。そして、風に乗って流れてくるカリビアンサウンド。ジャマイカにはそんなイメージがある。そういえば、バーのマダムをしていたのに、レゲエに狂ってジャマイカに住み着いてしまったNちゃんは今頃どうしているだろう。夜になって、突然日本に嫌気がさしたからちょっと行ってくるね、と隣の家にでも行くように行ってしまったっけ。ポップ・マーリーもいち早く聞いていた彼女。今は誰の曲がいいのかなあ。

彼女はどんなものを食べているのだろう。魚はふんだんにあるし、とにかく安いから生活は楽だ、と手紙には書いてあった。レゲエを聞いてジャマイカ・ラムを飲んでいれば温った気分なんかも吹っ飛んでしまう、とも。僕もジャマイカに行くから、といつも言っているくせに、なぜか行くチャンスがやってこない。ジャマイカについてはほとんど知らないけれど、コーヒーの王様ブルーマウンテンの産地だということくらいは知っている。この名前を初めて聞いたのは大学生生活も終わりに近づいた頃だった。ブレンドと違って、独特の香りのするものだと言われたのだが、そのときはよくわからず、「ブルマン」などといって注文する人を見るとちょっと尊敬したりしたものだった。

ジャマイカにはさまざまなトロピカルフルーツがある。その中でも有名なものがアキーという名の果物。ジャマイカ料理を食べさせてくれるロスの、とある店で口にした。桃くらいの大きさと、熟すと殻がはじけて3つに割れ、つやつやとした黒い種が見える。そのアキーと塩魚を使った料理がジャマイカでは有名だ。だが残念ながら、日本ではアキーが手に入らない。そんなわけで今回は、その時に一緒に食べたカレーの方を紹介しよう。本来なら山羊の肉を使うべきなのだが、この山羊も、なかなか手に入らない。山羊の代わりに骨付きの羊を使ってみた。このカレーは食べるときにたっぷりとライムを絞るのがおいしい。

西川 治 旅する 胃袋 No.3



羊肉(骨付きで1kg)に塩・こしょうをし、植物油を入れたフライパンで両面を焼く。厚手の鍋に、みじん切りにした2個のたまねぎと大さじ4のバターを入れ、こんがり炒める。ここに大さじ5杯のカレー粉を加え、さらに炒める。ここにさきほどの羊肉を入れ、ココナッツミルク1カップ、小口切りにしたとうがらし3本、ローリエ1枚、スープストック2カップを入れて煮る。塩を加えて味をととのえ、さらに1時間30分ほど煮込む。食べるときにライムをたっぷりしぼる。

にしかわおさむ 写真家・文筆家
1940年生まれ。世界数十か国を旅して遊び、味に精通。ダイナミックな料理人としても評判が高い。著書多数。

文・写真・料理 西川治



↑レゲエの7インチ・シングル盤。1枚\$40。



↑サウンドシステムのカセットテープ。1本\$80~100

←Tシャツ。上\$325、下\$370

←ホワイト・ラム。\$150



↑ラスタ帽。\$300



鍋つかみ。各\$40



←木彫りの魚 \$120、鳥 \$131



↑ラスタマンのキーホルダー。\$56



←カリビアン人形。各J\$158



←ジャマイカ入門ブック。左から\$25、\$45、\$140

↑ランチョンマット。\$50



↑葉巻。\$650



ネックレスと腕輪。↑セットで\$560

ツアーで楽しむ ジャマイカ

リゾート気分を満喫
「ジャマイカ・ニューヨーク」
「ジャマイカ・ウォルトディズニー」

落ち着いたヨーロッパの伝統とパワフルなアフリカの文化が混ざり合うジャマイカを味わうツアーがご紹介します。「ジャマイカ・ニューヨーク」はワシントン経由で、「ジャマイカ・ウォルトディズニーワールド」はデトロイト経由となっております。どちらともジャマイカではオールインクルーシブプラン、ホテルは人気の「ハーフムーン」など、6つのホテルからお選びいただけます。しかもウォルトディズニーワールドのツアーでは1日パスポートもついております。料金などは以下の通り。「ジャマイカ・ニューヨーク」(8日間、ホテル:ハーフムーン) 348,000円〜。「ジャマイカ・ウォルトディズニー」(8日間、ホテル:ハーフムーン) 352,000円〜。最少催行人数2名。

○左記ツアーのほかにも沢山のツアーをご用意しております。日程、料金、出発日など詳しくは下記までお問い合わせください。また、本誌掲載込みハガキでもパンフレット(無料)のご請求ができますのでご利用ください。
●お問い合わせ先
〒101 東京都千代田区神田駿河台4-3 新お茶の水ビル18F
運輸大臣登録一般旅行代理店第3893号
株式会社ライフトラベルショップお茶の水
TEL: 03-3233-9119